

には、リンクがあります。 は、WAMNETの事業者情報にリンクします。

事業所名 グループホーム パラディーソ神宮寺

日付 平成18年3月31日
特定非営利活動法人

評価機関名 ライフサポート

評価調査員 在宅介護経験14年
評価調査員 在宅介護経験9年

自主評価結果を見る

評価項目の内容を見る

事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります！)

外部評価の結果

講評

全体を通して(特に良いと思われる点など)

岡山の文教地に近い住宅地に普通の民家のたたずまいで建っているホーム。整理された品位のある飾り付けの玄関を経て、居室に入ると春の陽射しが、木造の居間が大きい窓の外のウッドデッキに連なって、暖かい雰囲気を感じ出している。利用者さん達に挨拶をすると、ゆったりとした風情で「ようこそましたな...、どちらから来られたの...?」と帰ってくる掛け合いは、ここでの生活の馴染んだ落ち着きを感じられる。この日は、一人の利用者の誕生日とかで狐寿司作ってのお昼のお祝いパーティーとか、えんどう豆の筋落としや具の調理をされたり、そして炊き立ての寿司ご飯を5人が囲み、団扇で冷やしたり寿司きりをしたりして狐寿司作りにいそまれていた。それが、職員の指図もないまま普段通りの営みのように皆と一緒にこなしているところに、「各人の出来る力を活かす」このホームの営みが覗えた。「利用者の気持ちをよく知る」ことを基点に、できる力を大切にしながら、職員と一緒に生活する雰囲気が確立している。ある利用者の妹さん達やお孫さんが5人連れて賑やかに面会に来られていたが、受け入れるホームのおおらかさが家族の来訪頻度を高くしているようだ。

事業代表者がお年寄りに貢献したいとする理念を持ち、管理者・職員を信頼して運営の一切を委任している所にこのホームの腰の据わった強さを感じさせられる。管理者のこの仕事にける意欲に加え、年配の相談役的な年配の方から若い方、そして男性職員配置などバランスも良く、昨年に変わらぬ顔ぶれの職員構成に安定感がある。各個室にトイレが備わっているのも嬉しい。この日、一寸体調に変化があった利用者対応で急いで医師に電話をしていたが、5分余りで往診された事に医療との連携の良さを実感した。

特に改善の余地があると思われる点 次のような提案をした

地道で腰の据わった日常の優れた実践を伝える「ホーム便り」を、家族への連絡ツールとしてだけでなく、地域や関係団体へのメッセージとして、またこのホームの歴史作りの視点も踏まえて、是非職員全員で手分けして取り組んで頂きたい。

また、認知症ケアのモデルの一つの典型を開拓しつつある営みを踏まえて、住民等を対象に認知症の理解や介護教室などの啓発活動を行い、地域の高齢者相談センター的な役割を作り上げて欲しい。最後に、要改善という事ではなく、研修を積んだ職員さんが健康に留意され、ストレスを克服されて今後とも長くこのホームで働かれる事を願う次第です。

I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有		
記述項目	グループホームとしてめざしているものは何か		
	ホーム開設以来、近隣の住人または家族が近くに住んで居られる方をといった条件での入所受け入れを原則にしている。グループホーム本来の地域密の理念がきちんと位置付けられている。 代表者が営利よりも地域と高齢者に対する貢献を掲げている理念に沿って、管理者が意欲をもって研修を積み、職員が研鑽を重ねているところにこのホームの腰の据わった運営振りが覗える。「現在の利用者の落ち着いた暮らし振りを尊重」し、空気が出来てもあわてて入居補充を急がない姿勢がゆったりとした生活ゾーンを作っているのだろう。「利用者のできる能力の尊重」と共に、「利用者の相互支えあい」を目指すホーム作りを目指している。		

生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り		
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり		
4	建物の外回りや空間の活用		
5	場所間違い等の防止策		
記述項目	入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か		
	奇を衒った飾り物などを避け、日本の普通の暮らしの延長線上にあるような雰囲気を醸し出している。品のいい玄関の飾り付けや、居間の後ろにある畳ゾーンなどの日本風の掛け物などが一寸したアクセントになっている。木造の暖かみが利用者にとる安心感をここでは感じる事ができる。		

ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映		
7	個別の記録		
8	確実な申し送り・情報伝達		
9	チームケアのための会議		
10	入居者一人ひとりの尊重		
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ		
12	入居者のベースの尊重		
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援		
14	一人のできることへの配慮		
15	入居者一人ひとりにあわせた調理方法・盛り付けの工夫		
16	食事を楽しむことのできる支援		

III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援		
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮		
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援		
20	プライドを大切にされた整容の支援		
21	安眠の支援		
22	金銭管理と買い物物の支援		
23	痴呆の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保		
24	身体機能の維持		
25	トラブルへの対応		
26	口腔内の清潔保持		
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応		
28	服薬の支援		
29	ホームに閉じこもらない生活の支援		
30	家族の訪問支援		
記述項目	一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か		
	昼食作りに殆んど休みなく働いている70歳代の婦人に声をかけると「もう何もできなくなってしまいました。皆様に助けていただいて、やっと生きております」と謙遜する。90歳代の婦人も「自分の仕事」といった家事姿。自立歩行出来ない方にも、座って出来る家事作業の一部をこなしてもらっている。 一人ひとりの利用者の状況に合わせた「出来る能力の尊重」や「声かけ」など、認知症の人に関わる基本的な姿勢が、職員研修の積み重ねや日々の実践によってつづられている。家族はここに安心して身内の介護を任せると感じるに違いなく感じさせる。 家族が対応に困惑したり、他の病院等からここへ来て落ち着きを取り戻した例を家族の人から聞くにつけ、このホームのケア水準の確かさが推し量られる。 多彩な福祉関係とのネットワークを活用し、高齢者介護の質の向上研修に留意している点が素晴らしい。		

IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映		
32	家族の意見や要望を引き出す働きかけ		
33	家族への日常の様子に関する情報提供		
34	地域との連携と交流促進		
35	ホーム機能の地域への還元		
記述項目	サービスの質の向上に向け、日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か。		
	事業運営者は管理者を信頼し、運営の全権を委任している点が特筆される。そして、利用者夫々を尊重して関わるケアを目指すと共に、職員夫々の個性を活かしてチームケアを大切にしようとする管理者の姿勢も強く感じられる。「ある程度の水準を保った職員を採用したい」という管理者の言葉通りに、意思疎通やその共有がスムーズな雰囲気、年齢バランスの良い構成と、研修に裏打ちされたケア力が備わって安定感を醸し出している。 開設後一定の年数を経て、新しい飛躍を目指す発想の転換が必要な段階に来つつあるような印象がふとよぎった。これまでの先進的实践を拠る所に、地域の高齢者ケアの相談センター的な役割を發揮するなど一皮むけた取り組みが始まる事を期待したい。		